



北海道における国際会議等誘致の取組



平成23年7月 北海道

I 国際会議等の 北海道開催の推進について



平成20年7月4日における国際会議等の北海道開催の推進の閣議了解、政府の支援

国際会議等の北海道開催の推進について

平成20年7月4日
閣議了解

1. 本日閣議決定された「地球環境時代を先導する新たな北海道総合開発計画」においては、「アジアに輝く北の拠点～開かれた競争力ある北海道の実現」を戦略的目標のひとつとして掲げ、北海道洞爺湖サミットの開催等を活用し、国際会議や国際的な規模で開催される行事の誘致を促進することとされている。

北海道では、サミットの開催を契機に、従来から進めてきた国際会議等の誘致の取組を強化することとしており、政府としても、新たな北海道総合開発計画を着実に推進する観点から、北海道による取組の強化に応じて今後必要な支援を行っていくこととする。なお、民間の国際会議等の北海道開催につき、民間にも協力を求めていくものとする。

2. 上記の必要な支援を行っていくために、各省庁連絡会議を設け、所要の調整を行うこととし、その庶務は国土交通省において処理する。

Ⅱ 誘致体制等



平成20年9月11日に官民一体の「北海道国際会議等誘致推進会議」を設置

（目的）

推進会議は、北海道の活性化に資するため、サミットの開催によって高まった北海道の知名度や培われたノウハウ、官民協働の機運を活かしながら国際会議等の誘致に積極的に取り組むことを目的とする。

（構成団体）

北海道、札幌市、北海道市長会、北海道町村会、北海道経財連合会、
（社）北海道商工会議所連合会、北海道経営者協会、
北海道経済同友会、（社）北海道観光振興機構、
北海道農業協同組合中央会、ホクレン農業協同組合連合会、
北海道漁業協働組合連合会

（顧問）

北海道経済産業局、北海道開発局、北海道運輸局

Ⅲ これまでの誘致活動の成果



北海道での国際会議等の開催状況(北海道洞爺湖サミット後)

北海道洞爺湖サミット(H20.7.7~9 洞爺湖町)

- ① 第1回G8水と衛生に関する専門家会合 (H20.12.16~17 帯広市) <外務省>
- ② 第5回日本・太平洋諸島フォーラム首脳会議 (太平洋・島サミット)(H21.5.22~23 占冠村) <外務省>
- ③ 第8回日豪観光交流促進協議 (H21.6.1~2 ニセコ町) <観光庁>
- ④ 第7回日ASEAN次官級交通政策会合 (H21.6.15~19 函館市) <国土交通省>
- ⑤ 第12回日中韓三カ国環境大臣会合 (H22.5.22~23 千歳市・苫小牧市) <環境省>
- ⑥ 2010年日本APEC貿易担当大臣会合 (H22.6.5~6 札幌市) <外務省>
- ⑦ 第15回日・オーストリア21世紀委員会 (H23.5.22~23 小樽市) <外務省>

IV 本道の優位性(1)

交通アクセス



道内空港に発着する国際定期航空路線(9路線)、各国からの乗り継ぎも便利

国際定期航空路線

新千歳空港	— ソウル	週20往復
〃	— 釜山	週3往復
〃	— 北京	週2往復
〃	— 上海	週3往復
〃	— 大連	週2往復
〃	— 台北	週14往復
〃	— 香港	週4往復
〃	— グアム	週2往復
〃	— ユジノサハリンスク	週2往復

新千歳 ↔ 羽田
1日52往復

新千歳 ↔ 成田
1日5往復

新千歳 ↔ 関西
1日11往復

新千歳 ↔ 中部
1日15往復

IV 本道の優位性(2) コンベンション施設



道内各地に国際会議等の開催に適したコンベンション施設が数多く立地



日本APEC貿易担当大臣会合
(札幌コンベンションセンターでの会議風景)



日本APEC貿易担当大臣会合
(札幌コンベンションセンターでの会議風景)



G8サミット会場(ザ・ウィンザーホテル洞爺)



太平洋・島サミット会場(アルファリゾートトマム)

IV 本道の優位性(3)

海外とのネットワーク



北海道とソウル特別市が友好交流協定を調印、姉妹友好提携地域代表者会議を開催



平成22年10月15日
北海道とソウル特別市が友好交流協定を調印

平成22年11月11日
姉妹友好提携地域代表者会議を開催
共同声明を採択



IV 本道の優位性(4)

訪日外国人来道者数の推移



中国からの来道者数の急激な増加、5年前と比較して約8倍(約9.3万人)、前年度からは倍増

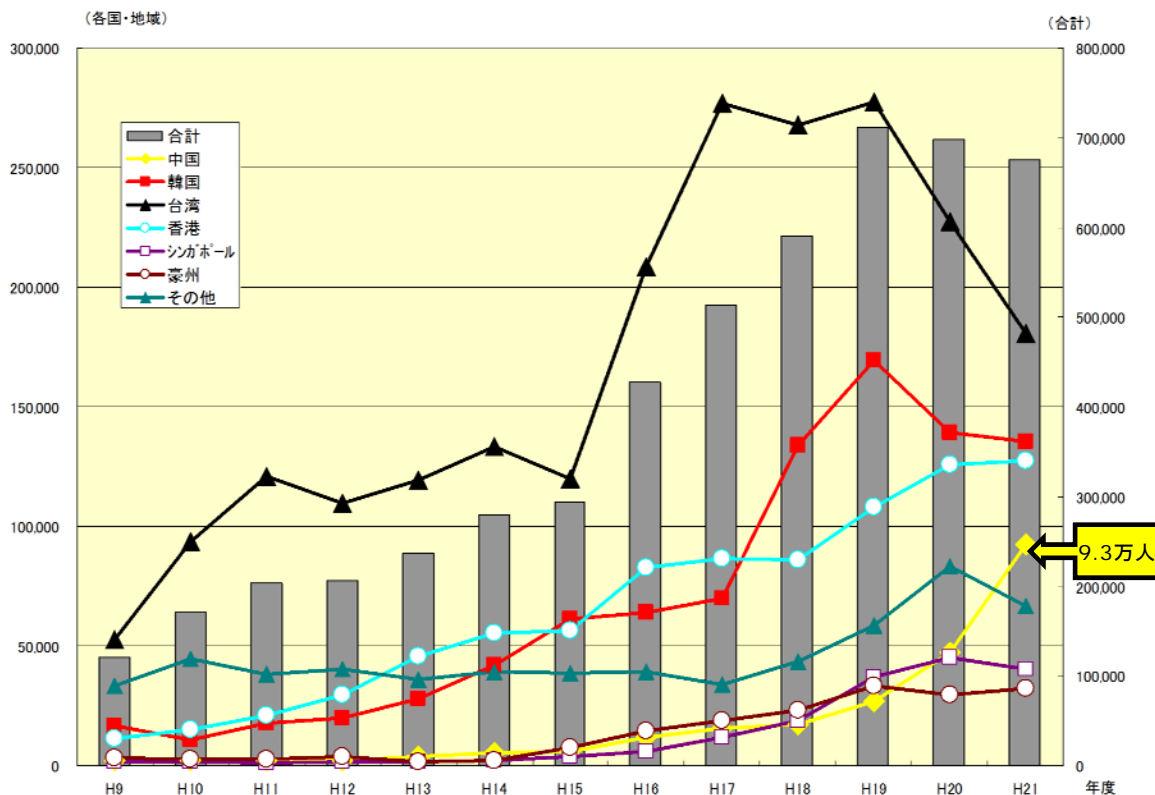
○近年の来道外国人数は、
約68万人

○うちアジアからが全体の約9割
(約60万人)

○世界同時不況などの影響で、
全体は減少傾向

○中国からはここ5年間で約8倍
(約9.3万人)、前年度から倍増

訪日外国人来道者(実人数)の推移



IV 本道の優位性(5) サポート体制



道内各都市には、「おもてなしの心」で国際会議の開催をサポートする体制が充実

(財)札幌国際プラザ コンベンションビューロー

(社)函館国際観光コンベンション協会

旭川コンベンションビューロー

コンベンションシティ北見推進協議会

(社)帯広観光コンベンション協会

(社)釧路観光協会

(財)北海道大沼国際交流協会

主な開催支援プログラム

様々な支援サービスで
国際会議の開催をサポート！

- ◇ 市内ガイドブック等資料の提供
- ◇ ボランティア通訳の派遣
- ◇ 同伴者プログラムの企画、実施
- ◇ コンベンション会場における各種サービス
- ◇ 市民、報道機関への広報

等

IV 本道の優位性(6-1)

食・自然・文化



国際会議等での北海道の食・自然・文化の発信



道産食の発信イベント(日本APEC貿易担当大臣会合)



雪だるまによる歓迎(日本APEC貿易担当大臣会合)



アイヌ舞踊の披露(太平洋・島サミット)



「YOSAKOI ソーラン」の演舞(G8サミット)

IV 本道の優位性(6-2)

食・自然・文化



世界に誇る自然遺産



釧路湿原



洞爺湖有珠山ジオパーク



知床海岸



知床連山

V 直近の取組状況(1)

国際的な学会に関する調査分析事業



国際的な学会の北海道開催について、誘致に向けたアプローチ・情報の発信

国際的な学会に関する調査分析事業

1. 調査目的

国際的な学会等の北海道への誘致に活用するため、道内の各大学教授が所属する国際的な学会の実態を把握するとともに、誘致可能性の高い学会の選定や誘致にあたっての問題点等について調査分析を実施した。

2. 調査方法

- (1) 国際的な学会に関するアンケート調査
- (2) 国際的な学会に関するヒアリング調査
- (3) 学術団体及び国際学会に関する現況調査(アンケート調査)

3. 今後の展開

(1) 誘致活動

調査結果で得られた情報をもとに、国際学会の北海道開催について積極的な教授に対して、誘致に向けた具体的なアプローチを行う。

(2) 情報発信

日本学術会議協力学術研究団体等に対して、国際学会の誘致に向けた情報発信を行う。

V 直近の取組状況(2)

北海道コンベンションガイド



平成22年5月24日に北海道コンベンションガイドを開設

◇掲載情報

- ①「Why Hokkaido」
(北海道の国際会議開催地としての魅力、優位性)
- ②コンベンション施設・宿泊施設
- ③市町村情報
- ④コンベンションビューロー
- ⑤開催サポート

◇対応言語

日本語、英語、中国語(簡体字・繁体字)、
韓国語、ロシア語

◇URL

<http://www.nrc.or.jp/hcg/>

国際会議の開催は、 是非、北海道で！！



(問い合わせ先)

北海道総合政策部知事室国際課
国際会議担当

(担当:長谷川、磯部、高畠)

〒060-8588 札幌市中央区北3条西6丁目
TEL:011-231-4111(内線21-206)